

Fontaine

発行日 2024年1月25日

発行 岸和田文化事業協会

〒596-0073 岸和田市岸城町5-10

岸和田市立自泉会館内

TEL/FAX 072-437-3801

Email: fontaine@sensyu.ne.jp

https://jisen.jp

令和6年度の3館合同事業はこれ!

「第九 ～市民とともに～」

皆さんは「3館合同事業」という言葉を知っていますか?

「そんな聞いたことないわ～」という人の方が多いと思います。

岸和田市では“市民に色々な芸術や文化に触れてもらいたい”という思いから、市内にある公立館「浪切ホール」「マドカホール」「自泉会館」の3館に「市民参加をメインにした企画事業」を協力して行うようにとの提言がなされました。これを受けて平成23年度より3館の担当者が、舞台芸術、壁面・空間芸術、音楽芸術各部門の企画アイデアを出し合い検討し、毎年開催しています。

例えば令和4年度は市制施行100周年の記念も兼ねて「令和 岸和田風物百選」というテーマで、岸和田市民及び岸和田に縁のある方々に「岸和田市の後世に残していきたい風物」を募集しました。お陰様で小学生からご高齢の方まで絵画等のアート作品でご参加いただき、素晴らしい作品展を開催することが出来ました。

また今年度は舞台芸術部門で、東京パラリンピック開会式のパフォーマンス「片翼の小さな飛行機」に出演された、いいむろなおき氏を迎えパントマイムの世界に触れることが出来ました。この企画も岸

和田市民や岸和田市に縁のある方々を公募しました。小学1年生から70代の方まで13名が参加し、30時間を超える練習の成果「いいむろなおき パントマイムワークショップ発表会 ～見えないものが見える?!～」をマドカホールで上演しました。

このように3館合同事業では、たくさんの市民の皆様が多様な芸術に出会える機会を継続して考えています。

令和6年度は、音楽芸術にチャレンジします。岸和田市民や周辺地域の皆さんを含めて100人を超えるコーラス隊で「ベートーヴェンの第九」を浪切ホールの大ホールで歌い上げようと考えています。誰もがためらわずに参加出来るように30回の練習を用意し、コーラス隊を支えてくれるのは、若きマエストロ藤村知史氏率いる「きしわだ第九記念オーケストラ」の若手演奏者たちです。

さらに藤村知史マエストロによる「モーツァルトピアノコンチェルト23番」も予定しています。この曲のピアニストも若い演奏者を公募し、岸和田市が目指す芸術家の発掘育成事業にも寄与出来ると考えています。

令和6年度3館合同事業 「第九 ～市民とともに～」

日 時：令和6年12月15日（日）午後2時開演

会 場：岸和田市立浪切ホール 大ホール

第1部 ピアノ協奏曲第23番 イ長調 K.488（モーツァルト）

- ・指揮者：藤村 知史
- ・オーケストラ：きしわだ第九記念オーケストラ
- ・公募しオーディションを経て選ばれた1名のピアニスト

第2部 交響曲第9番 二短調 作品125（ベートーヴェン）

- ・指揮者：藤村 知史
- ・オーケストラ：きしわだ第九記念オーケストラ
※自泉アーティストバンク登録者からも数名参加予定
- ・ソリスト ソプラノ：佐々木 真衣
アルト：中村 茜
テノール：孫 勇太
バリトン：梶 貴志
- ・きしわだ第九合唱団：約100名

※2024年5月に公募のお知らせをします。

しあわせをはこぶアート



井上 陽太 くん

自泉会館のデスクに「ハッピーカラーだるま」のカレンダーをいつも置いている事務員がいます。彼女に「そのかわいい絵を描いているのはどなた？」と聞き、井上陽太くんを紹介していただきました。陽太くんとお母さんに、それらの絵を自泉会館のロビーに展示したいと申し出たところ、快くお受けくださり「ハッピーカラーだるま（アクリル画）」と「久米田池（油絵）」を展示させていただくことができました。このことがご縁で、今回、陽太くんのお母さまにお話を伺いました。

井上陽太くんといえば、かわいいだるまの絵「ハッピーカラーだるま」を思い浮かべますよね。よくご存じの方もいらっしゃると思います。

陽太くんにはお姉ちゃんがいます。お母さまは彼が1歳ぐらいの時から「お姉ちゃんとは少し違うな、目を合わさないな、落ち着きがないな…」と違和感を抱いていたそうです。

2歳の時、自閉症と診断を受けました。治ると信じ、良いと思うことにいろいろトライしてきましたが、自閉症は脳の病気で治らないものだとして認識した時から、彼の好きなことをみつけ、彼のやりたいことの応援をするようにしてきました。

その頃から陽太くんは「色」に強い興味を持ち、たくさんの絵を描き始めました。伝えきれない想いを絵に描き、言葉の代わりに作品として表現するようになりました。そうして、どんどん作ることへの楽しさが増していったようです。

小学生になると幾田邦華絵画教室に通い、水彩画・アクリル画・油絵も経験してきました。パソコンでも絵を描くようになりました。

また「色」に興味がある陽太くんは、絵具や刺しゅう糸・フェルトなど、きれいな色のものをたくさん揃え、絵を描いたり、粘土工作をする以外

にも、ぬいぐるみのお洋服やマスコット人形も作ったりしています。

「何かを作り出そうと企てている様子が常に伺える」とお母様はおっしゃいます。

今ハマっているのは、かまぼこ板に絵を描いてパズルを作ったりすることで、井上家では最近、かまぼこをたくさん食しているのだとか。

現在、陽太くんは「社会福祉法人 野のはな 森の小径」で、レストランの受付や花壇のお花の手入れ、お掃除など色々な仕事に挑戦しています。帰宅後は作品作り以外にも、ショッピングセンター「そよら東岸和田」への買い物（今はかまぼこを買いに行くのですね）や、整体に行くなど「何でもできる」を目標に充実した毎日を送っています。

お母さまから陽太くんへの思いです。「小さなころは大変なことばかりでした。お先真っ暗と思ったこともありましたが。今は、たくさんの温かい方々に助けられ、とても楽しい時間を過ごすことができています。陽太がいたからこそ、たくさんの人に出会い、たくさんの楽しさを得ることができました。ありがとう！」

人によって苦しいこと、つらいことの度合いは様々でしょう。その先にはきっと、うれしいことや楽しいことが待っているはず。この取材を通じ、改めてそう感じました。陽太くんとお母様に会えたこと感謝しています。

（取材：黒木）



『熊沢友雄日記』

～岸和田藩士の暮らしをたどる～



嘉永五年(1852)から明治二十八年(1895)までの間記述された『熊沢友雄日記』。このページでは岸和田まつり関連の日記を抜粋しご紹介していきます。

※月日は新暦

明治二十一年 (1888)

七月二十一日 旧夏祭事、野村ヨリ太鼓台ヲ出ス、因ニ記、
一昨日貝塚氏神祭典ノ由ニテ、
①沼野ヨリ請招有之候得共、
暑熱甚敷(はなはだしき)ニ付参向ヲ得ス

八月七日 浜口□□なり所へ川社建、
堺町初外(初めほか)ニヶ町②壇尻新造
相成
引試の爲、本日願済の上、
近町引歩行との事なり

- ① 沼村＝沼町＋並松町＋筋海町
野村＝上野町＋下野町
- ② 新調三町・旧壇尻の購入先
堺町→熊取野田
南町→貝塚市三ツ松
大北町→熊取小谷



明治二十一年 (1888)

九月十四日 明日祭礼に付、午後二時過
中ノ庄湊吉水より老母并(ならびに)おのふ、
男女の児及下卑を伴ひ来る、
三、四日逗留の筈なり

本日は未明より諸町壇尻を引出し、
雑踏限りなく前夜より殆ど通宵の姿なりし
九月十五日 祭礼に付氏神へ例の如く鏡餅一重を献供し、
表口へ献灯を出す等又例の如し
来客は午前判修氏大坂より、岡本安蔵堺より…
本日は至極の晴天にして、市中の来客及び
近在より入込みたる参観人等にて
至る処群集し、頗る賑ひなりし、
殊に歡ふ可きは今年は前書の如く
雑踏せしにも拘はらず、
争論故障等も聊か(いささか)之れ無く、
平穩に各町へ壇尻を引込み、
神事を終えたるの一事にして、
従前に比すれば其例を見ざる程なりき

明治21年にはだんじりの新調について触れられています。また、この頃にはまだ、太鼓台とよばれるものも引き出されていたようですね。さらに、この年の祭礼は観客も多く、たいへんな賑わいであったようですが、争いがなく平穩な中で神事を終えられたことを殊の外歎んでいる記載が見られます。現在の祭礼においても、同じように感慨深く思う方々はたくさんいらっしゃることでしょう。未明から夜通し祭りを楽しむ人々や、町の雑踏、来客、玄関表の献灯など、昔も今も変わらない様子が読み取れます。

Cultural Hot Spot In Kishiwada

岸和田の文化ホット情報

折り紙という素晴らしい文化

最初は、自分の子どもたちの面倒を見るための手段としての折り紙でした。簡単な手裏剣から始まり、もっと面白いものを探すうち複雑な折り紙工程を要する「超複雑系」という折り紙の分野に出会い、現在も深く関わるような趣味に発展しました。

とても複雑に見える折り紙の作品が「不切平方一枚折り（1枚の正方形でしかも切れ込みを入れることなくできている）」はインパクトがあり、それを見た人の驚く顔を見るのが最初はとても楽しかったです。また、完成した作品を人にあげたりすると、さらに喜んでもらえたので、それを見て私も嬉しい気持ちになりました。

30歳を超えてから再発見した趣味でしたので、周りに納得してもらうために日本折紙協会発行の折紙講師という資格を取りました。さらにこの資格を活かそうと、岸和田市社会福祉協議会でボランティア登録をしたところ、すぐに折り紙教室の依頼が入り2年ほど続けていました。その実績で、現在は岸和田市の総合福祉センターで教養講座を開講しています。今年度までは、折図が全く読めない人向けの初級と、折図へ理解を深めたい中級



日本折紙協会 折紙講師 田中国太郎

の2コースですが、2024年4月からはさらに技術的な向上をめざす上級コースを加えての3コース制になります。興味がありましたら是非、社協だよりに注目してください。

私は折図を見れば理屈抜きに指先が動きます。しかし講座では、自分の感覚を一旦言語化しアウトプットするという作業が入りますので、今までにない脳の領域を使っているような気になります。脳の衰えを防止するための教養講座ですが、実際その恩恵は私が一番受けているのではないかと思います。

現在は教養講座と折り紙サロンが活動のメインで、さらに社会福祉協議会をとおしてボランティア依頼が来ます。また年に1度、きしわだ自然資料館の折り紙ワークショップでサポート講師として参加しています。これは広報でお知らせしています。

講座で語る折り紙にまつわるトピックスに興味を持った生徒さんのリアクションや、まだ講座で教えていない作品の質問などが出てきたりすると嬉しくなります。

今後は、子ども対象の折り紙教室を定期的開催したいと思っています。また、折り紙の折る工程は興味がないとかなりつまらないものなので、大道芸のように魅せるものにならないものかと考えることがあります。

折り紙という素晴らしい文化を持つ日本人として生まれたことが誇りです。



泉州の 近代建築

vol.4

岸和田が誇る歴史。寺社仏閣や城下町はもちろん、趣ある近代建築も忘れてはなりません。その魅力や特徴を、大阪府ヘリテージマネージャーの山岡邦章氏にご紹介いただきます。

「岸和田城」編 Part II 城はどうなった

大阪府ヘリテージマネージャー 山岡 邦章

岸和田城には謎が多い。誰が最初に築いたのか、最後はだれが破却したのかすらわからない。発掘調査でも江戸時代の遺物が少ない。何度か発掘調査を行ったが、遺構面直上に砕けた瓦を放り込んであるだけでそれ以外の生活感のある遺物が少なく、建築部材なども遺構面上で一切出土しない。本来は礎石があったであろう場所に礎石が残っていたのは1箇所のみで、その他は土坑状の遺構が確認できるだけだった。つまり、ある時期に建築物を破却し非常に丁寧な撤去が行なわれ、陶磁器、什器等はもちろん、金属、金具類、礎石まで撤去されていたことが窺えた。

岸和田城の建物撤去の史料としては、旧家臣の齋藤貞常の記したものが知られる。明治4（1871）年8月の記述には「城櫓破壊」と題し「家禄奉還致すべき時期到来すべしとの御布告を拝見し恐れ入る上に復（また）二の御丸の櫓竝（ならび）に二重御門且は魚屋町なる外御堀埋め立てに相成由にて土堤御櫓の土堀など取壊すさまを見て如何とも云ふべき言葉もなく唯々恐れ入るばかりにて『時勢とは云いながらいかなれば實に落城のけふの有様』（八月廿日）」「（略）まづ宿に帰りけるに、わづか七八日の間に又々御城廓をとりこはす由にて、門前御城の水を落し或は土堤の松木を伐採し見る目もいたいた敷あはれなる有さまを見て（略）（九月八日）」と記されている。

旧家臣からみて言葉もないくらいに他圧的な取壊しが行なわれ、齋藤の気持ちの揺れ、諦観がにじみ出る。二の丸には二つの櫓があり、一つは三重の伏見櫓、もう一つは西隅にある二重の月見櫓。この頃、西隅櫓周辺はまだ政庁があったわけで、齋藤の記述からは伏見櫓が破却された可能性が高い。わざわざ「二の御丸の櫓」と書くのは、徳川家から下賜され天守焼失後の城を代表する櫓であったからではないか。

また明治4年に二の丸建物倒壊の記載が、旧家臣の熊沢友雄の日記に見られる。5月19日に「例剋ヨリ参庁スルノ所、二ノ丸多間長屋、昨夜ノ暴風ニテ倒ルヲ見ル、其他、政庁ノ屋根破損多シ・・・」とみえ、また6月4日には「政庁・諸院、過日ノ大風ニテ殊ノ外破壊シ、未繕サルノ所、今日ノ大雨、屋ヲ漏リ、殿上傘・履ヲ用ユ・・・」この時点で室内で傘、履を用いなければならないほど御殿は荒れていた。しかし熊沢の日記には、これ以降も齋藤のような

想いの深い記述は見られない。明治4年7月14日の廃藩置県の衝撃とともに、版籍奉還、8月8日には旧藩主が東京へと移り、もはや御殿の修繕は叶わないという諦めがあったのだろうか。

廃藩置県後、御殿（藩庁）は岸和田県庁へと移行し、その頃の「公廨建物坪数帳 旧岸和田県」を見れば、県庁の建物の内訳と間取りは、ちょうど奥と大奥を除いた部分に該当する。5月にはかなりの破損をしていたとは言え、従来からの政庁はこの時期には県庁舎として継続して使用された。その僅か5ヶ月後の明治4年11月22日には岸和田県は廃止され堺県の一部となる。以降県庁舎は堺県の出張所として使われたようだが、明治5年2月に出張所も廃止、熊沢によると6月13日には残務整理を終え引き払われる。

半年後の明治6年1月14日（新暦）、太政官令「全国城郭存廃ノ処分並兵営地等撰定方」いわゆる「廃城令」が公布され、岸和田城も廃城処分のリスト「第二號」に。そして廃城令9ヶ月後、明治6年10月6日（新暦）の熊沢の日記には旧家臣である山岡尹方郎からの帰路「略・・・帰路旧城二ノ郭内ヲ過ク、近來巍々（ぎぎ：山のように大きな）タリシ旧主ノ邸館纔ニ（わずかに）礎石ヲノミ存シ、茫々タル秋草虫声哀ヲ訴フ、茲ニ（ここに）至テ徘徊顧望シ去ルニ忍ヒス、更ニ草徑ヲ分テ歩ヲ進ム処、泉石跡ヲ存シ、庭樹三、五残ル・・・略」と見え、二の丸御殿跡は、草生して中央の庭池の痕跡を残すのみであることが窺える。つまり岸和田城の建物は、明治4年から6年にかけてすべて消滅したのである。



二の丸伏見櫓跡



Ichigo-Ichien

地域の宝探しと情報発信と



株式会社 0724 代表取締役
蘆田 有香

私は大学を卒業後、キッズプラザ大阪に4年半勤め、20代後半に観光情報のホームページを作る仕事で三重県伊勢市の会社に転職。地元岸和田から一時離れていました。その頃はまだホームページを持っている企業も少なく、今のように個人がSNSにすぐ投稿できるようなスマホありません。地域の観光情報のポータルサイトもまだほとんど見られませんでした。自分専用に初めて買ったMacBookと、素人が持つのも重いニコンの一眼レフを相棒に南伊勢地方をあちこち取材。ホームページの仕事は1年ほど経験し大阪に戻ってきました。

そのあと、ウェブデザインを学びながら派遣社員として仕事を覚え、2004年30歳で個人事業主として独立。2008年以降は株式会社0724として、おおさか地域創造ファンドに採択された地域情報誌「0724」の制作にも関わり、創刊号から4号、番外編として「茅渚（ちぬ）の海」とも呼ばれる大阪湾特集の発行をきっかけに、岸和田を拠点にウェブデザインの仕事と地域情報発信を続けることになりました。

まちの人に取材をする中で、子どもの頃から住んでいても地元のことは何も知らないな、ということにあらためて気づかれ、起業と同時に岸和田市観光振興協会の「岸ぶら」で市民ぶらがーとしても記事を書かせていただくようになりました。

地域の自然や歴史、文化が私たちの今につながっていることが面白く、そして言葉にするのは難しいのですが「そこにあるのに全く意識しなければ無いのと同じ」と、意識するようになりました。

誰でもスマホで写真がすぐ撮れて、世界中に発信できる時代。「まちの魅力を伝え、まちと人をつなげる」ことをあらためて大事にし、地域のお役にたてるよう次のステップにむけて、より一層がんばりたいと思います。これからもよろしく願います。



届けたい心の歌

自泉アーティストバンク（声楽）

渡邊 諭子



私が声楽を習ったのは中学生の時、初めて人前で歌った曲は「千と千尋の神隠し『いつも何度でも』」でした。

その頃から歌うことが楽しくなり、高校は帝塚山学院の音楽コースに進学しました。そこで恩師に出逢い、音楽の世界が広いこと、また言葉の深さも享受しました。

以前シューベルトの3大歌曲集の1つである「美しい水車小屋の娘」の演奏会に行き、洗練された言葉の表現に感動しました。それがきっかけで、私は今ドイツ語を習っています。ドイツ歌曲の詩と音楽の繋がりを学び、より表現に活かせるように頑張りたいです。また音楽だけではない色々な方々との出逢いもあり、そのご縁に感謝しています。

日々生活していると、楽しいこと落ち込んだりすることが多々あると思います。そんな時そっと寄り添ってくれるのが音楽だと私は感じています。

演奏会に来てくださったお客様に寄り添えるような、また私の歌を聴きたいなあと感じていただけるような、心に届く歌をこれからも歌っていきたいです。

今後もコツコツと努力し、演奏会で皆様とお会いできる日を楽しみにしています。

*岸和田文化事業協会は、自泉アーティストバンクをとおして若い芸術家を応援しています。

協会主催の事業にご来場いただき、有難うございました。アンケートにご協力頂いた方の感想を紹介させていただきます。

對馬健太郎ソロコンサート ～歌とピアノとハワイの女神～

日 時:令和5年10月15日(日)午後2時開演
会 場:岸和田市立自泉会館ホール
入場者数:100人



〈皆さんの声〉

- ◆アーティストの力、場所の力をとても感じることができるコンサートでした。
- ◆大きなホールのコンサートも好きですが、今回は凄く近くに感じられて最高でした。
- ◆對馬さんのピアノは迫力があり、歌声の高音が奇麗で優しく素敵でした。

文化の日祝典記念事業 ファミリーコンサート ～ジブリがいっぱい～

日 時:令和5年11月3日(金・祝)午後1時30分開演
会 場:マドカホール
入場者数:384人



〈皆さんの声〉

- ◆美しい歌声とピアノに癒されました。またクイズもあり、文化の日を充実した日にできました。
- ◆感動で涙がこぼれました。子どもと過ごした日々を思い出したからだと思います。歌の力はすごい。
- ◆知っている曲ばかりで子どもたちと楽しく聴くことができました。こういう機会が増えるといいなと思いました。

岸和田現風景、景観地区を歩く 和泉式部をたずねて

日 時:令和5年11月5日(日)午前10時～正午
会場(場所):岸和田市 桜台界隈
参加者数:8人

〈皆さんの声〉

- ◆岸和田に住んでいても知らないところや知らないことが結構あるのだと思いました。
- ◆和泉式部の講座は、桜台周辺の史跡自体が全て偽物であると和泉名所図にも述べられていて、何だか「あらまー」みたいな感じでした。言伝えのロマンと言うことでしょうか。



講演会と現地案内「城跡と八陣の庭と天守閣」

日 時:令和5年11月11日(土)午前10時～正午
会場(場所):自泉会館展示室と岸和田城
参加者数:13人



〈皆さんの声〉

- ◆前半の講演会で聴いたお話が、後半の現地見学体験ができたことでさらに理解ができました。
- ◆講師の方の計らいで八陣の庭に入り、麒麟が下りると言われる場所に立てたことは素敵な体験でした。
- ◆八陣の庭に込められた重森三玲さんの深い祈りや、単なるシンボルと見ていたお城の意味合いに驚きました。岸和田市の財産として、内外に発信していくべき遺産だと思いました。

第73回自泉フレッシュコンサート

日 時:令和5年12月15日(金)午後6時30分開演
会 場:岸和田市立自泉会館ホール
入場者数:50人

〈皆さんの声〉

- ◆この空間でこの距離で聴く演奏は、新鮮で力強い感じで素敵でした。
- ◆生で音楽を聴くのは久しぶりでした。鳥肌が立つくらいすごかったです。
- ◆生の演奏がとても良い心の栄養になりました。



第7回自泉クリスマス会 “手作りワークショップ”

日 時:令和5年12月16日(土)～17日(日)午前10時～午後5時
会 場:岸和田市立自泉会館展示室
参加者数:73人



〈皆さんの声〉

- ◆毎年干支のぬいぐるみを作りお家に飾っています。今年もかわいい龍のぬいぐるみができ新年が待ち遠しいです。
- ◆先生が丁寧に教えてくださるので素敵な手作り作品が仕上がりました。
- ◆自分で作った世界に一つだけの作品ができました。



第7回自泉クリスマス会 “あわてんぼうのクリスマスコンサート”

日 時:令和5年12月17日(日)午後2時開演
会 場:岸和田市立自泉会館ホール
入場者数:53人



〈皆さんの声〉

- ◆若い演奏家さんの演奏できる機会として自泉会館の取り組みはとても共感いたします。
- ◆皆さん力強い演奏で素晴らしいと思いました。
- ◆程よい大きさのホールで素敵な演奏を聴くことができました。

●～見て・聴いて・感じよう～

たのしい音楽の時間へようこそ♪

幼児～小学生を対象としたコンサート。「ジブリ」「ディズニー」
「サウンド・オブ・ミュージック」をメインにお届けします。

日 時: 令和6年2月17日(土)午後2時開演

会 場: 岸和田市立自泉会館ホール

出演者: 西村 文花 (ソプラノ)

若杉 亮 (ピアノ)

チケット: 中学生以上 前売1,000円(当日500円増)

小学生以下 500円(保護者の同伴必要)

定 員: 60名



●自泉アーティストバンク事業

新進ソプラノ歌手たちが奏でる

～オペラアリアからオペレッタまで～

日 時: 令和6年2月24日(土)午後3時開演

会 場: 岸和田市立自泉会館ホール

出演者: 大原 陽羽 (ソプラノ)

西村 文花 (ソプラノ)

土生 夏未 (ソプラノ)

渡邊 輪子 (ソプラノ)

星川 響子 (ピアノ伴奏)

安枝 まなみ (ピアノ伴奏)

プロデュース: 角野 芳子

チケット: 前売2,000円(当日500円増)

定 員: 80名



●第14回フレッシュプレミアムコンサート最優秀賞受賞記念 大槻夏子 ピアノリサイタル

日 時: 令和6年2月25日(日)午後2時開演

会 場: 岸和田市立自泉会館ホール

出演者: 大槻 夏子 (ピアノ)

チケット: 一般2,000円 学生1,500円

定 員: 80名



●第74回自泉フレッシュコンサート

日 時: 令和6年4月20日(土)午後2時開演

会 場: 岸和田市立自泉会館ホール

出演者: 村上 美祐 (ソプラノ)

安江 優花 (ソプラノ)

チケット: 会員前売1,000円(当日200円増)

一般前売1,200円(当日200円増)

定 員: 80名



■チケット販売場所

岸和田市立自泉会館事務所

■申し込み・問い合わせ

岸和田文化事業協会事務局まで

〒596-0073 岸和田市岸城町 5-10 岸和田市立自泉会館

TEL/FAX 072-437-3801

E-mail fontaine@sensyu.ne.jp

※事業の詳細・チラシは、岸和田文化事業協会ホームページにも掲載しています。

文化情報

◆由季パッチワークキルトクラブ作品展

日 時: 令和6年3月29日(金)～31日(日)

午前10時～午後5時(31日のみ午後4時まで)

会 場: 南海浪切ホール 多目的ホール

入場無料

問合せ: 由季パッチワークキルトクラブ 小木曾 由季

TEL 090-6552-7071

令和5年度(2023年度)(2023年4月～2024年3月)

会員募集

年会費 個人会員(1口) 2,000円 団体会員(1口) 5,000円
家族会員(1口) 1,000円 法人会員(1口) 10,000円
(個人会員の同居家族) 特別会員(1口) 50,000円

入会方法 協会事務局(自泉会館)で直接受付致します。
郵便振込の場合は 口座番号 00970-9-28145
加入者名 岸和田文化事業協会

詳しくは、岸和田文化事業協会事務局まで
TEL/FAX 072-437-3801 Eメール fontaine@sensyu.ne.jp

お知らせ

会員の方は8面に文化情報を掲載することができます。掲載希望の方は事務局まで
お越しいただき用紙にご記入ください。多数希望の方がいらっしゃる、当協会主催の
事業がたくさんあるなど、ご希望に添えない場合がございます。ご了承ください。
※自泉会館をご利用の際は、咳エチケットにご協力ください。

お願い

岸和田文化事業協会に取り上げてみてはどうかと思われる
コンサートや展示会がございましたら、ぜひ事務局まで
案を届けてください。今後の参考にさせていただきます。

nouvelle
Fontaine

vol.81

発行: 岸和田文化事業協会

発行日: 2024年1月25日

◆事務局
〒596-0073
岸和田市岸城町5-10 岸和田市立自泉会館内
TEL/FAX 072-437-3801
Eメール fontaine@sensyu.ne.jp

◆編集委員 小末もとえ・小木曾由季・黒木幸子
協力 近江和代・本郷元子・山村若代紀

編集後記...

跳ねる兔から天に昇る辰の年となりました。皆様にも事業協
会にも、願わくは昇竜の年となりますように。今年もよろし
くお願いいたします。(小末)

<https://jisen.jp>



岸和田文化事業協会

検索

